

令和元年度 第3～6学年算数少人数 授業改善推進プラン

教科	1学期に実施した工夫と課題	課題を受けた今後の改善策
3年	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★学習の流れや、自分や友達の考えが後で振り返ったときに分かるノートを作る力を育てたい。 ・自分の考えを整理して書いたり、友達に分かりやすく伝えたりすることができるようにする。 <p>【工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆指導目標の明確化と学習の見通し ・自分の考えを友達に伝えるようにノートに書かせる。その際に算数的な表現の方法として、図や表などいろいろな方法があることを都度確認して見通しをもたせた。 	<p>Cことばの吟味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをより短く、分かりやすく、伝えるためにどのような言葉を使ったらよいかを考えさせるようにする。 ・指導・支援をする際に、児童が説明に使えるようなキーワードなどを板書に残しておき、個々の活動の目安になるようにする。 <p>E相互の学び合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を友達に伝える活動を増やすことで、友達に理解してもらえたという成功体験を積みせたり、逆にうまく自分の言いたいことが伝わらない原因が何なのかを考えさせたりする機会をつくる。
4年	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★計算のアルゴリズムをただ覚えるのではなく、その構造がどうなっているのか、どうしてその方法でできるのか、しっかりと説明する力を育てたい。 ・都度「どうして?」「なぜそうなるの?」などと質問を投げかけることで、公式やアルゴリズムをただ暗記するだけにとどめないようにする。 <p>【工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆教材の開発と工夫 ・数値設定を公式の構成要素やアルゴリズムのしくみが分かりやすいものにし、児童が説明しやすいような工夫をした。 	<p>A指導目標の明確化と学習の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の何が使えるかを授業のはじめに確認するなど、その時間の学習の見通しを全体で立てるようにする。 <p>D補助資料の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が机上で操作するものと、板書用、それぞれに簡易的な図を用意し、言葉での説明がうまくできなくても、自分の考えを示すことができるようにする。 <p>E相互の学び合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数の得意な児童に説明をさせ、その後、同じ公式やアルゴリズムの説明を他の児童にも同じように説明させるなど、児童相互で学び合える機会をつくる。
5年	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★新しく学習することの説明を、既習事項を使って誰にでも分かりやすく簡単にできる力を付けさせたい。 ・新しい学習が、これまでに学習したことの何とつながっているのかを考えて、系統的に学習内容を理解できるようにする。 <p>【工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆教材の開発と工夫 ・授業のはじめに、既習事項で本時の学習に使える内容を扱い、本時の学習での考え方を示唆的に与えるようにした。 	<p>A指導目標の明確化と学習の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のはじめに、既習事項で本時の学習に使える内容を扱ったうえで、本時の課題との関連を全体で確認するなどし、本時の学習とのつながりを確認して学習の見通しをもたせる。 <p>F評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統的に学習内容を考えて発言したりノートに記したりすることのできている児童を、全体の場で認め合ったり、その場で解説を入れながら評価をすることで、系統的に学習事項を考えようとする力を育てていく。
6年	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★中学校とのつながりを意識し、自己の知識を総動員して新しい事項や難易度の高い事項を説明できる力を付けさせたい。 ・小学校での学習を系統的に理解し、パターン化して物事を説明できるようにする。また、説明する手段を増やしていく。 <p>【工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ことばの吟味 ・数学的な言葉を使うように意識し、本時の学習内容が、これまでに学習した何と関連付いているかをおさえながら、理解を深めていけるようにした。 	<p>B教材の開発と工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じて、既習事項をしっかりと理解していないと解けない課題や、既習事項を少し工夫して用いないと解けない課題などを用意し、確実に深い理解ができるようにしていく。 ・中学校とのつながりを意識して、数学的に意義のある知識を付けさせる。 <p>E相互の学び合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を積極的に用いて、本時の課題を解決しているものを全体がグループ活動の場で発表させ、相互に理解を深められるようにする。また、より簡潔な考え方や、誰にでも理解できるような説明ができるようにさせる。

今年度の成果と課題

【成果】

- ・ICT機器を活用し、言葉での説明がうまくできなくても、自分の考えを示すことができた。
- ・自分の考えをもち、発表し、相手にわかりやすく伝える力が児童全体に向上した。
- ・ユニバーサルデザインを活用し、めあての設定から学習のまとめまでの授業の流れや本時の学習とのつながりを意識して授業ができた。

【課題】

- ・お互いの考えを出し合い、話し合いでさらに深めるにはどうしたらよいか方法を探っていきたい。
- ・理解に時間がかかる児童への学習支援の仕方を様々な角度から考えていきたい。